

令和 6 年 4 月 15 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00362

研究課題名（和文）明末「艶文学」の総合的研究

研究課題名（英文）General study on late Ming amorous literature

研究代表者

大木 康（OKI, Yasushi）

東京大学・東洋文化研究所・教授

研究者番号：70185213

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：白話小説『金瓶梅』、文言小説集『艶異編』、戯曲『牡丹亭還魂記』、王彦泓のような艶詩人、『青楼韻語』『唐詩艶逸品』などの女性詩集、『吳騷合編』『太霞新奏』などの散曲集、馮夢龍の『掛枝兒』『山歌』など俗曲集、民間歌謡集その他「艶文学」作品が続々と生み出された明末清初の時期について、馮夢龍、姜実節など個別の人物に焦点をあてることによって、一人の人物の中で、これらさまざまなジャンルが交錯していた様相が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小説、戯曲、詩文など、これまで個々のジャンルの中で完結して行われる傾向のあった文学研究にあって、中国明末清初の時期に数多く世に出た「艶文学」を一つの切り口として、詩、詞、曲、小説など、幅広いジャンルにわたって作品を残した馮夢龍、姜実節などの文人に焦点を合わせることによって、個々の人物の中で、これらさまざまな文学ジャンルが交錯していた様相を明らかにしたことは、従来の文学研究の枠を打ち破る端緒となる研究である。

研究成果の概要（英文）：At the end of the Ming Dynasty, many kinds of works of “amorous literature” were produced one after another, including popular novels such as “Plum in the Golden Vase”, plays such as “Peony Pavilion”, collections of women's poetry, and collections of folk songs, such as Feng menglong's “Mountain Songs”. Focusing on individual figures such as Feng Menglong and Jiang Shijie during this late Ming and early Qing period, I could give a clear picture on the way how these various literary genres were intertwined within a single person.

研究分野：中国文学

キーワード：中国 文学 明末 清初 小説 戯曲 詩文 民間歌謡

1. 研究開始当初の背景

中国の明末は、「艶文学」の時代であったといえるだろう。白話小説の世界においては『金瓶梅』をはじめ、馮夢龍の『三言』、李漁の『十二楼』などがあられ、文言の小説においても、秦淮寓客『緑窓女史』、王世貞の編とされる『艶異編』、馮夢龍の『情史類略』など、歴代の女性にまつわる物語を集めた故事集が続々と編まれている。戯曲については、湯顯祖の『牡丹亭還魂記』をその代表としてあげられよう。艶詩人、王彦泓(1593～1642)があらわれたのもこの時代。そして、歴代の妓女が作った詩を集めた『青楼韻語』、唐詩の中から女性を詠じた詩ばかりを集めた『唐詩艶逸品』なども編纂刊行されている。さらに、散曲集『吳騷合編』、『太霞新奏』などを見ても、「詠妓」の作などが多くを占め、馮夢龍の『掛枝兒』、『山歌』など男女の恋情を主題とした俗曲集、民間歌謡集に至る。

従来の研究では、これらが、詩文、戯曲、文言小説、白話小説など、ジャンルごとにばらばらに行われており、全体を見通す視点が存在していなかった。従来も、例えば『牡丹亭還魂記』などの戯曲、『金瓶梅』ほかの小説など、個々のジャンル、個々の作品に関しては、詳細な研究が行われてきた。しかしながら、これらの明末文学総体を横並びにして行われる研究は、これまでほとんどなかったといってよい。一つの『牡丹亭還魂記』が作られる背景、一人の王次回があらわれる背景には、当時のさまざまなジャンルにわたる「艶文学」作品、女性への関心があったのであり、それらを総合的にとらえる視点が欠如していたように思われる。

2. 研究の目的

従来も、例えば『牡丹亭還魂記』などの戯曲、『金瓶梅』ほかの小説など、個々のジャンル、個々の作品に関しては、詳細な研究が行われてきた。しかしながら、これらの明末文学総体を横並びにして行われる研究は、これまでほとんどなかったといってよい。一つの『牡丹亭還魂記』が作られる背景、一人の王次回があらわれる背景には、当時のさまざまなジャンルにわたる「艶文学」作品、女性への関心があったのであり、それらを総合的にとらえる視点が欠如していたように思われる。

本研究では、ジャンル横断的に、明末「艶文学」をとらえることによって、こうした作品が次から次へと作られた精神的背景を明らかにすることができると思う。

なお、この時代の文学作品は、詩文選集、小説選集なども含めて、すべて編纂されるやただちに印刷刊行されている。当時の出版文化の盛行を視野に収めることによって、需要と供給の面から、これらの作品をとらえなおすことも必要である。

3. 研究の方法

本研究の研究代表者大木康は、これまでも明末の文学者馮夢龍を中心に研究を進めてきた。蘇州の文学者、馮夢龍は、戯曲、小説、散曲、民間歌謡など、広いジャンルにわたって、「艶文学」と呼びうる作品を数多く生み出した人物である。申請者は、なかでも、馮夢龍が編んだ蘇州の民間歌謡集『山歌』について、単行の著書『馮夢龍『山歌』の研究』を世に問うている。『山歌』に収められる400首近くの歌は、いずれも男女の恋情を詠じた歌である。この著書の中でも、馮夢龍が『山歌』を編纂刊行した動機について触れている。しかしながら、それは多くが『山歌』所収の歌と序文を材料にしており、同時代の他のジャン

ルの作品との関係は、必ずしも十分に視野に入っていたわけではない。本研究において、他ジャンルとの関係を明らかにすることによって、その全体像を捉えることを目指す。

また、馮夢龍以外にも、明末清初期には、「艶文学」に関わった文人は少なくない。なかでも、姜実節という人物は、詩、詞、戯曲など「艶文学」に関わる作品の残る人物であり、本研究にとって視点を据えるに価する人物である。

申請者は、またかねてより、明清期の妓楼と妓女に関心を抱き、研究を行ってきた。その成果は、南京秦淮の色街に関する『中国遊里空間』、蘇州の色街に関する『蘇州花街散歩 山塘街の物語』、また明末清初の名妓董小宛をめぐる『冒襄と『影梅庵憶語』の研究』などで世に問うてきた。色街は、いうまでもなく女性のいる空間であり、それはまた同時に、戯曲演劇の鑑賞の場であり、歌の唱われる場であり、詩文が作られる場でもあった。その意味で、妓楼は、いわばジャンル横断的に作品の製作と鑑賞が行われる場でもあった。明末には、南京の秦淮、蘇州の山塘など、色街が繁栄したが、そうした時代の空気も、いわゆる「艶文学」盛行の背景をなすものであった。銭謙益と柳如是、冒襄と董小宛など、名士と妓女の関係も、文壇の佳話として伝えられる時代であった。

4．研究成果

白話小説『金瓶梅』、文言小説集『艶異編』、戯曲『牡丹亭還魂記』、王彦泓のような艶詩人、『青楼韻語』『唐詩艶逸品』などの女性詩集、『吳騷合編』『太霞新奏』などの散曲集、馮夢龍の『掛枝兒』『山歌』など俗曲集、民間歌謡集その他「艶文学」作品が続々と生み出された明末清初の時期について、馮夢龍、姜実節など個別の人物に焦点をあてることによって、一人の人物の中で、これらさまざまなジャンルが交錯していた様相が明らかになった。

馮夢龍については、「馮夢龍の『中興実録』について」(『汲古』第84号)ほか、姜実節については「清初文人姜実節の生涯とその文学藝術」(『東洋文化研究所紀要』第180号)ほかによってその成果を示した。さらに花街の研究では、香港にかつて存在した花街である石塘咀について「香港石塘咀花街雑考」(『東洋文化研究所紀要』第182号)を発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 大木 康	4. 巻 137
2. 論文標題 姜サイの顕彰活動 『姜貞毅先生輓章』をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 斯文	6. 最初と最後の頁 37 - 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大木 康	4. 巻 182
2. 論文標題 香港石塘咀花街雑考	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東洋文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 237 - 266
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大木 康	4. 巻 1
2. 論文標題 中国書肆史考 近世を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『書物・印刷・本屋 日中韓をめぐる本の文化史』	6. 最初と最後の頁 700-717
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大木 康	4. 巻 1
2. 論文標題 『桐橋倚棹録』と近代蘇州の文人たち 王伯祥・顧頡剛・葉聖陶・俞平伯	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『石川忠久先生星寿記念論文集 菊を採る東籬の下』	6. 最初と最後の頁 351-365
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大木 康	4. 巻 10
2. 論文標題 中国明末と日本十八世紀の文学・思想	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『アナホリッシュ國文學』	6. 最初と最後の頁 95-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大木 康	4. 巻 180
2. 論文標題 清初文人姜実節とその文学藝術	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『東洋文化研究所紀要』	6. 最初と最後の頁 1-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大木 康	4. 巻 12
2. 論文標題 明代中国における文化の大衆化	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『岩波講座 世界歴史』	6. 最初と最後の頁 163-179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大木 康	4. 巻 2
2. 論文標題 白話	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『漢字を使った文化はどう広がっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏 東アジア文化講座2』	6. 最初と最後の頁 245-254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大木 康	4. 巻 1
2. 論文標題 繆セン孫『京本通俗小説』成立の背景とその製作過程	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 明清文学論集	6. 最初と最後の頁 209-233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大木 康	4. 巻 84
2. 論文標題 馮夢龍の『中興実録』について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 汲古	6. 最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大木 康	4. 巻 41
2. 論文標題 鹽谷温 (1878-1962) の中国戯曲小説研究 兼及東京大学早期的中国文学科	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中正漢学研究	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 大木 康
2. 発表標題 ボクセン孫『京本通俗小説』成立的背景及過程
3. 学会等名 書頁辺縁：従声音、形象到文本世界 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 大木 康	4. 発行年 2022年
2. 出版社 香港城市大学出版社	5. 総ページ数 215
3. 書名 晚明風雅	

1. 著者名 大木 康	4. 発行年 2021年
2. 出版社 生活・読書・新知 三聯書店	5. 総ページ数 173
3. 書名 『『史記』与『漢書』 中国文化的晴雨計』	

1. 著者名 大木 康	4. 発行年 2021年
2. 出版社 復旦大学出版社	5. 総ページ数 332
3. 書名 明清戯曲俗曲雑考	

1. 著者名 大木 康	4. 発行年 2020年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 788
3. 書名 明清江南社会文化史研究	

1. 著者名 『明清文学論集』編集委員会	4. 発行年 2024年
2. 出版社 東方書店	5. 総ページ数 487
3. 書名 明清文学論集 その楽しさ その広がり	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------